

就労継続支援 A 型事業所における利用者の知識・能力向上に係る実施状況報告書

事業所名	就労継続支援A型事業所 働く力 BASE	事業所番号	4410300794
住 所	大分県中津市大字宮夫140番地2	管理者名	伊達 俊介
電話番号	0979-53-9801	対象年度	令和6年度

利用者の知識・能力向上に係る実施概要

<活動内容>

SST（ソーシャルスキルトレーニング）

テーマ 「言語的・非言語的コミュニケーションを学ぶ」

①SST参加のルールについて全体で共有する。

②学習：多様な障害に対して多様性を障がい者を持ちながら日常生活を送る視点の育成。

対人コミュニケーションは言語だけではないことを理解する。

③ロールプレイ：研修で学んだ手話を活用し、実践を体験する。

参加者：利用者10名

<目的>

非言語コミュニケーション能力の向上を目的として本研修を行う。

利用者の多くは言語的コミュニケーション能力が乏しい傾向にあり、他者との関りは言語だけではないという切り口のもと、手話を通じて、多様社会への適応能力の向上と他者を理解するという意識改革を行った。

<成果>

「自身の障害を正しく理解し、就労におけるコミュニケーション能力をあげていく。」ことを研修で講師より伝えられた。今回の目的にもあるように手話を学ぶということよりもその向こうにある障害というものを正しく理解し、非言語コミュニケーション及び言語コミュニケーションに捉われない社会の構築をどのように考えていくかを利用者とともに学んだ。障害を正しく理解することにより利用者は「受容」について少し理解できたと話す。このことから利用者の多くは自身の障害に対して正しく理解したいと思っている。社会生活を行う上で、自分を知るという事も技術であると利用者で共有した。

<活動の様子>



連携先の企業や事業所等の意見または評価

手話を通じて、言語的コミュニケーション能力と非言語的コミュニケーション能力があることを理解してもらいたかったことが、今回の研修目的である。利用者は真剣に研修に参加しており、非常に有意義であった。特に一般就労において職場内でもコミュニケーションは必要不可欠である。しかし、言語の捉われず、表情やしぐさなどでもコミュニケーションは可能であることを伝えられたと感じる。特に精神障がいや発達障がいの方々は、言語的コミュニケーションばかりに技能訓練が着目しがちであるが、非言語的コミュニケーションの方法も技術のひとつであると理解してもらえれば、本研修も目的は達成されたといえる。

連携先企業（担当者）

中津市生涯学習大学 講師 安部恭一先生

利用者からの意見・評価

- ・ W氏：発話だけでなく、手話などの非言語的コミュニケーションもあることを知りました。
- ・ A氏：自分は、コミュニケーションが非常に苦手である。方法を知れたのはよかったです。
- ・ I氏：気持ちや考えを伝える。相手を理解する部分の講義は大変勉強になりました。